

「街の可能性を広げる」

# 今日は、まつり日和。

## 中央市ふるさとまつり



今年2回目の開催となる「中央市ふるさとまつり」は、中央市三大まつり(れんげまつり、与一公まつり、稲穂まつり)を統合してパワーアップした“今ほんとうに行ってほしい祭り”だ。  
素敵なモノ、コト、おいしい食べ物を持ちえたお店が120店以上。歌謡ショーや子どもの憧れ“ヒーローショー”のステージほか、地域で活動する様々な団体のステージで家族や友人を探すのも一興。  
目指すのは、市民総参加!開催直前、実行委員会のメンバーの熱量に触れた。



122の出店と2つのステージ  
思い思いに味わうふるさとの魅力

2町1村が合併して10年の節目であった昨年、それまで各地域にあったまつりを一つに統合し、「中央市ふるさとまつり」が誕生しました。そこには「中央市としてもっとまとまる」という思いと、「より新しく・より面白く」という未来への思いがありました。

「昨年末までは『3大まつり』と呼ばれていた。その、3大まつりの取り組みや伝統を引き継ぎ、良いところを縫い合わせて出来上がったのが『中央市ふるさとまつり』です。結果として、経費を削減することができ、中央市としての一体感をより高めるきっかけになりました。初年度ながら3万3000人の人出があり、朝から夕方まで人が途絶えない光景がみられました。それだけで、大成功ですよ」と、浦田勉会長は楽しげに振り返ります。

中央市の魅力と個性をぎゅっと詰め込んだ故郷の祭り。パザーや飲食の出店はもちろん、地元企業や友好都市による122の出店が軒を連ねます。また、メインと芝生ステージの2つを楽しめます。

「ゆくゆくはメイン会場のみではなく、市全体を回遊して盛り上げられるような、市民総出のおまつりに成長させていきたいですね」と新海一芳副会長。虚無僧行列や粘土節といった伝統の色を残しながら、時代の変化に合わせて「年々ステップアップしていきたい」と、街を前進させることを考えている実行委員のメンバーの熱意。中央市ふるさとまつりは、ずっと変わらない良さで、どんどん変わる良さの両面を携えています。

には、いろんな人がいるんな立場で、夢中で関わっています。行政がイベントとして場をつくるのではなく、市民がやりたいからやる。「ふるさとまつり」は、市民主導。元来の祭りのカタチと時代に合わせた柔軟さを持つ「未来型の祭り」かもしれませんね」と新海副会長は言います。

2027年にリニア新幹線が開通すれば、中央市から東京までは20分、名古屋までは40分でアクセスできるようになります。中央市はいよいよ全国、そして世界中から人が訪れやすい場所となります。

「今の子どもたちが大人になる頃には、人々の考え方が変わっていると思うんです。だから今のように東京へ出て暮らして、時々帰ってくるのではなく、なる可能性も高い。ここから東京へ行く、ここから名古屋へ行くというように、ここを中心に動くようになるかもしれないと思います。だからこそ、地元にある魅力をきちんと掘り下げ、外に見せていかなければいけません。リニアで通過される街にならないようにしたいです。あらゆる活動・対策をよりスピードアップしていく必要がありますね」(新海副会長)

一つのまつり会場から、地域全体に波及できるように。まつり当日だけでなく、地域全体が常に活動的であるように。そんな願いが込められた子どもからお年寄りまでそれぞれの楽しみを見つけれられるまつり。未来を強く意識したまつりの出現が、街と人に新しく変わっていく勇気を与えてくれます。

まつりの主役は子ども!  
市民総参加のまつりへ

ふるさとまつりのコンセプトは「子どもが楽しむイベント」というもの。「子どもをいかに喜ばせるか、子どもをいかに大事にしてあげられるか」への挑戦」という浦田会長の提案に「行政、企業、福祉施設なども大賛同。協力体制が生まれました。」

「子どもを存分に楽しませることができると、本質はそこにあると思うんです。その理由は、子どもが街の未来を担う存在であることはもちろんですが、子どもが参加すればとにかく賑わうから。子どもが参加すれば、おじいちゃんもおばあちゃんも、お父さんもお母さんも子どもに引つ張られてまつりに参加するのです」(浦田会長)

幼い頃の楽しい記憶は、大人になっても残るもの。近年ではみこしが出ないことも増えたが、中央市ふるさとまつりには、自治会参加の「こどもみこし」があります。

「みこしを担ぐ(引く)という経験をしてもらいたいですね。今年は、みこしに参加した子どもたちに『シークレットイベント』も用意しているんですよ」と、いたずら顔で新海副会長が話す。シークレットイベントですが、「昨年みこしを出すタイミングで、子どもたちを待たせてしまったという反省点の見直しから生まれたアイデアだそう。より楽しく、より喜んでもらえるように、というブレない信念は、まつりをどんどん面白くしています。」

かつて、日本の祭りは地域のコミュニケーションの場でした。中央市ふるさとまつり

### 「中央市ふるさとまつり」のパンフレットは『捨てられない!パンフレット!!』



市の広報誌と一緒に全世帯に配布された今年のパンフレットは、実行委員や携わる人たちの強い想いが詰まっていた。それは、地域活性化にもつながるクーポン券付き!まつりの時だけではなく、地元地域にみんなが訪れるきっかけとなる画期的なアイデアが実現。  
中央市の地域活性はこのおまつりをはじめ、近い将来・未来を見据えながら進化していくことは間違いない。

第2回 笑顔満祭 -子どもが集えば未来が変わる-  
**中央市ふるさとまつり**  
11月3日(金)  
会場 / 玉穂ふるさとふれあい広場  
時間 / 9:00~15:30  
問合せ / 中央市ふるさとまつり実行委員会  
事務局 中央市商工観光課  
055-274-8582